

国内医療機関と事業者の連携の考え方 大学・学会の活動事例 1 / 2

医療人材の育成、医療技術の提供事例（大学）

	大学名	取組みの概要		大学名	取組みの概要
1	旭川医科大学病院	中国で、中日友好医院（北京）等と「日中遠隔医療プロジェクト」などを実施。	11	東京医科歯科大学医学部附属病院	チリ国保健省とクリニカ・ラス・コンデス病院と3者協定を締結。大腸癌検診システムを普及。
2		タイのターマサット大学外科に、内視鏡下甲状腺手術の手術器具の提供と手術手技を指導。	12	東京大学医学部附属病院	バングラディッシュ政府と共同で、黒熱病の疾患制御のための医療拠点を形成し医療を提供。
3	愛媛大学医学部附属病院	モンゴルで、小児循環器医、麻酔科医等によるチームを結成し、小児循環器診療を提供。	13	徳島大学病院	ネパールのトリブバン大学医学部眼科に医師を派遣し、眼科診療、教育、研究を実施中。
4	大阪大学医学部附属病院	アジア・中東・欧州・アフリカ・中南米の23カ国で、困難度の高い心臓カテーテル治療を提供。	14	弘前・新潟・三重・岡山・九州・長崎大学病院	ミャンマーで、医療技術等の向上を目的に、形外科、小児外科等の外科治療と教育を提供。
5	鹿児島大学医学部・歯学部附属病院	エチオピアとインドネシアで、現地大学と共同で口唇裂口蓋裂手術と現地医師の教育を実施。	15		北米、ヨーロッパの医療機関と、小児肝腫瘍臨床試験に関するテレカンファレンスを実施。
6	九州大学病院	「アジア遠隔医療開発センター」を設置し、アジアを中心に394施設とのネットワークを構築。	16	広島大学病院	ブラジル、中国の医師に内視鏡的大腸粘膜下層剥離術のライブデモによる実技指導を実施。
7		バングラディッシュで、日本製の生体センサーを組み合わせた健診パッケージを提供。	17		カンボジアの小学校等で歯科健診を実施。要治療者には現地病院と連携して治療を提供。
8	筑波大学附属病院	心臓血管外科手術、脳血管内治療、消化器外科治療を延べ約60名に医療を提供。	18	広島・長崎大学病院	カザフスタンで、肝臓移植手術支援（15例）及び指導を実施。
9	宮崎大学医学部附属病院	アジア等8ヶ国から病院幹部や保健省関係者を招聘し、人工透析技術セミナーを開催。	19	福井大学医学部附属病院	ウガンダで、脊椎疾患、関節疾患、外傷患者の手術を実施。現地医師への技術指導も行う。
10	千葉大学医学部附属病院	ベトナムでの病院建設に際しての助言や、医療、教育等の技術的コンサルティングを提供。	20	琉球大学医学部附属病院	ラオスで、子宮頸がん予防のための細胞診の研究・健診を実施。腫瘍病理学教室も開催。

国内医療機関と事業者の連携の考え方 大学・学会の活動事例 2 / 2

医療人材の育成、医療技術の提供事例（学会）

	学会名（会員数）	国際的な取組み例		学会名（会員数）	国際的な取組み例
1	日本内科学会 (109,277名)	世界63組織が加盟する国際内科学会に積極的に参加。2016年総会は、インドネシアで開催。	11	日本産婦人科学会 (16,373名)	日本の医療の認知の低さに課題認識を持ち、新興国の学会や教育講演の参加を推進。
2	日本外科学会 (39,742名)	国際委員会を設けて、若手外科医の学術交流（主に米・英・独）を実施。	12	日本癌学会 (15,216名)	学術総会でいち早く国際化を推進。アジア・オセアニアを中心に海外医師とのシンポジウムを実施。
3	日本消化器病学会 (33,933名)	国際協力事業として、アジア太平洋地区の若手医師を3名受け入れ臨床研修の機会を提供。	13	日本超音波医学会 (14,918名)	アジアの学術連合大会との連携、外国人若手医師の受入れ、アジア留日経験者情報の活用等。
4	日本消化器内視鏡学会 (33,187名)	ロシア、中国、米国、オーストラリア等との学術交流に加え、中国とのハンズオントレーニングを実施。	14	日本内視鏡外科学会 (13,000名)	2016年タイにNPO法人MESDA設立。14大学の学長・総長が連携し産官学で技術移転を推進。
5	日本循環器学会 (26,014名)	欧州、米国の学会との学術交流を実施。国際名誉会員等との人脈も構築。	15	日本麻酔科学会 (12,536名)	新興国（タイ、ベトナム、ネパール等）の若手医師の受入れを実施。期間は30～90日程度。
6	日本整形外科学会 (23,987名)	米国、カナダ、香港、韓国の学会での研究発表を推進。韓国は2017年度より開始。	16	日本救急医学会 (10,451名)	2013年のアジア救急医学会を東京で開催。新興国での日本の救急システムの普及に取り組む。
7	日本小児学会 (21,331名)	Asian Society for Pediatric Research の第1回学術集会（2005年）を東京で開催。	17	日本脳神経外科学会 (9,567名)	2003年より日印脳神経外科学会議を開催。インドの若手医師を数週間受け入れ、研修を提供。
8	日本癌治療学会 (17,644名)	2015年に韓国・中国の腫瘍学会とFederation of Asian Clinical Oncologyを設立。	18	日本人間ドック学会 (6,001名)	2016年の国際健診学会を東京で開催。学術大会には台湾、韓国の医師を招聘し交流推進。
9	日本糖尿病学会 (17,603名)	カナダ、欧州、米国、アジア糖尿病学会の学術交流への出席など連携を強化。	19	日本脊椎脊髄病学会 (3,757名)	毎年アジア諸国の学会・病院と連携し、45歳以下の若手医師数名を3週間現地に派遣。
10	日本透析学会 (17,158名)	学術集会のシンポジウムに、中国、香港、対、ベトナム、ミャンマー、インドの医師を招待。	20	日本医学教育学会 (2,604名)	日韓医学教育学会交流事業や、ベトナム、モンゴルを中心に医師の指導者養成プロジェクト支援。